

Event: 2024年度 関東学生ヨット春季選手権大会決勝/2024 Kanto Intercollegiate Sailing Spring Championship Final Series Race Number: 5
Hearing Schedule: 2024-05-06 15:20

PARTIES AND WITNESSES

Request No.: 10: 470 - Hayama - 4692 - 4692 - Yusuke Nariai

470 - 4716 - 4716

Request No.: 19: 470 - 4349 - 470 - 龍乃介 古林

470 - 4716 - 470

Request No.: 16: 470級 - 法政大学 - 4716 - 4716 - 永井 天音

470級 - 駒澤大学 - 4349 - 4349

Request No.: 18: 470級 - 法政大学 - 4716 - 4716 - 永井 天音

470級 - 東京大学 - 4692 - 4692

VALIDITY

Objection to Jury: No

Within Time Limit: Within Time Limit

Incident Identified: Yes

Proper Hail: Protest hailed

Red Flag Displayed: Yes

Decision: Request Valid

PROCEDURAL MATTERS

Case10, 16, 18, 19は、同じインシデントかまたは密接に関連しているインシデントのため、規則63.2に基づき、一つの審問で審問することとした。

艇15の代表として大島来実、艇51の代表として成相祐介、艇122の代表として 古林龍乃介が、それぞれ出席した。

FACTS FOUND

レース5の3マークゲート付近、風速12ノット・波高は50センチだった。

15と51は3Sマークにポートでアプローチしており、15がゾーンに入ったときに、15が内側、51が外側でオーバーラップしていた。

その時、122は15と51のクリアアスターンで、スターボードタックで3Sマークにアプローチしていた。

15の内側にはさらに2艇がオーバーラップしており、15がその2艇にマークルームを与えながら、マークに近づき、スターボードにジャイブをしていたとき、122のバウが15のスターボード側のスターンに接触した。

その衝撃で、15は左に方向を変え、51のハルの中央に15のバウが接触した。

51はその時スターボードにジャイブを終えていて、マークとの間に15とその内側の2艇がマーク回航するのに必要なだけのスペースを取っていた。

51のハル中央にはガンネルとハルがはがれるほどの損傷があった。

51はそのレースをフィニッシュしたが、次のレースの前にダクトテープで補修したが、補修前には相当な浸水があった。

15のバウにはFRPに達する傷ができたが帆走に影響はなかった。

122には損傷はなかった。

いずれの艇もペナルティーを履行していない。

Diagram: Diagram not endorsed

CONCLUSIONS AND RULES THAT APPLY

Rules: 12, 14, 18.2b, 43.1a

15がゾーンに達した時にクリアアスターンだった122は、15に対しマークルームを与えなかったので規則18.2 (b) に違反した。

クリアアスターンだった122はクリアアヘッドだった15を避けていなかったで規則12に違反した。

122は常識的に可能だったにもかかわらず、接触を回避しなかったので、規則14に違反した。

15は風上艇として風下艇51を避けていなかったなので、規則11に違反した。接触を避けることは常識的に可能ではなかったなので規則14には違反していない。

15の規則11違反は122の規則違反によって強いられたので、15は規則43.1(a)により免罪される。

DECISION

Date & Time: 2024-05-06 16:25 JST

艇122を第5レースにおいて失格とする。

PROTEST COMMITTEE

Committee Type Protest Committee

Chaired By: Masaaki Tanaka (JPN)

Committee Members: Hideaki Saito (JPN) 福井洪一

Printed: 07 May 11:15